

【畑中圭一（一九三二〜）】さんの続き。学校や  
子どものことも大阪弁で書かれています。

大きい声がでエへんね

国語の時間は

大きい声がでエへんね

よむのんへたやし

ようけ 字まちがえるし

あの子が きいてるしなア

あの子のまえでも

大きな声が うごかれへんね

しゃべること でエへんね

いうこと あらへんし

なんぞ いわなあかんし

すっかり あがつてしまっねん

ゆめのなかでも

大きな声が でエへんね

ないてる あの子に

ぼくが さげぶねんけど

なんでか 声でえへんね

ええかつこし

あの子

学級会で よう つげぐちしよる

ぼくら いわれっぱなしや

じぶんかて このまえは

かいぐいしたやんか

ええかつこ すんな

あの子

授業中に すぐ 手をあげよる

ほんまに わかつてるんかいな

わからんと 手あげたら

しまいに はじかくでエ

コート はしつてはるのに

ええかつこ すんな

あの子

きれい ことばで よう しゃべりよる

ぼくら つきあいきれんわ

はらたつと 「おい われ」と

さけんでまうくせに

ええかつこ すんな

あの子 きらいや

ふたりで いてるとき

なにを きいても ふんふんやし

ものも いわんと もじもじて

たよらないわあ あの子

きらいや

みんなと いてるとき

いつも いちびり ほたえてな

うちを アネさん いいやるねん

いけずやでえ あの子

きらいや

やきゆう してるとき

うちが おうえんしてるのに

こつち みむきも せえへんね

かつこええけど あの子

きらいや

\*いちびる＝じゃれる

\*ほたえる＝ふざける

\*いけず＝いわる

せんせ(先生)

せんせ あしが ふといな  
ゾウさんみたいや  
いつも

たつてはるさかい な

せんせ こえが てかいな  
ステレオなみやで  
いつも

がなつてはるさかい な

せんせ おいど ごついな  
ダンプみたいやで  
いえで いばつてはんのやろな

※いちびるにゃれる



かさ

あめ ふつてへんのに  
あの子 なんて かさ さしてるねん  
かさ みせたいんやろん  
うれしがり

あめ ふつてるのに  
あの子 なんて かさ ささへんのや  
かさ だいじなんやろ  
あほかいな

あめ やんでるのに  
あの子 なんて かさ さしてるねん  
かさ ほしてるんやろ  
よう きい つく

なりたい なりとうない  
なりたいねん なりたいねん  
ぼく 美容師になりたいねん

なりたいもんは ほかにもあるで

テレビの司会者 ディレクター

ケーキやさんに コックさん

そやけど 美容師さんが いちばんや

女のひとに よろこばれる

ええ しょうばいやで

おかあちゃんの しわ のばして

おねえちゃんの かみ きれいにカット

やすうにしたるわな

なりとうない なりとうない

ぼく パイロットには なりとうない

なりとうないもん いろいろあるで

学校の先生 おいしやさん

べんごしさんに 社長さん

そやけど 飛行機のりは かなんねん

かっこはええし きゅうりようかて

ええらしいけどな

おかあちゃんは なれ いうけど

英語の勉強 せならんし

たかいとこ にかてや